

瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第3報～

滋賀県立衛生環境センター
琵琶湖水質担当
平成14年4月15日

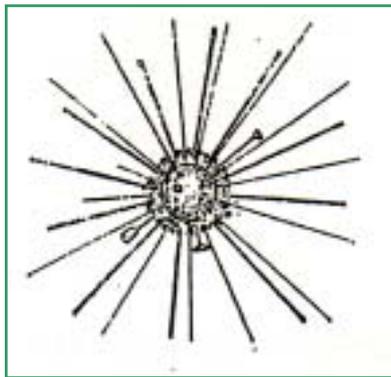
1. 最も数が多かった種類（優占種） 植物プランクトン第1優占種



Cyclotella glomerata
(ヒメマルケイソウ)
珪藻綱

殻面は円形で、その直径は4～10 μmと小さい。
多数が鎖状に結合して群体をなす。

動物プランクトン第1優占種



Raphidocystis sp.
(ラフィドキスティス)
太陽虫類

細胞は球形で多数の仮足が放射状に出ている。仮足の中心の軸系は細胞内の中心粒で終わっている。細胞は粘質物に覆われていて、粘質物の中に多数の骨片がある。

コメント

植物プランクトンはキクロテラ、ホシガタケイソウ共に減少して、総細胞数も減少した。淡水赤潮の原因となるウログレナの中群体が1群体/ml現れた。今回、全細菌数および無色鞭毛虫数を測定したところ、全細菌数は、 4.7×10^6 cells/mlと南湖としては非常に低く、無色鞭毛虫は 3.5×10^2 cells/mlと南湖としては低い方であった。

2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
肉質虫類	<i>Raphidocystis</i> sp.	4400

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	440

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

平成14年4月15日

第3報

(2) 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	300		
(黄鞭) <i>Dinobryon bavaricum</i>	82		
(黄鞭) <i>Pseudokephyrion conicum</i>	20		
(黄鞭) <i>Pseudopedinella</i> sp.	20		
(珪) <i>Melosira granulata</i>	59		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	9		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	310		
(珪) <i>Skeletonema potamos</i>	20		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	18		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	110		
(珪) <i>Nitzschia holsatica</i>	16		
(渦) <i>Peridinium berolinense</i>	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	260		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	140		
(緑) <i>Elakatothrix gelatinosa</i>	20		
(緑) <i>Golenkinia radiata</i>	40		
(緑) <i>Ankistrodesmus falcatus</i> var. <i>mirabile</i>	20		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	15		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	422	28.7	27.3
(珪) 珪藻綱	542	36.9	19.3
(渦) 渦鞭毛藻綱	10	0.7	0.3
(褐) 褐色鞭毛藻綱	400	27.2	39.6
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	95	6.5	13.5
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	1469	総体積	1.18E+06
種類数	18	(μm^3)	

注1) 細胞数の単位は(細胞 / ml)

ただし * 印の種は群体数(群体 / ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種

数字は各綱ごとの占有率(単位: %)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

試験的に推定した概算値である。